

## 茨城県支部

### 地方都市の中心市街地活性化に関する調査研究

#### ～廃線問題下で崖っ淵のまちなか再生～

国内景気のトレンドを見ると今回の景気回復は戦後最長となったが、一方では回復感に乏しい回復とも呼ばれている。県内においても、昨年8月に開通したTX沿線の一部では環境が変化し好転の兆しが見えるものの県全体として見れば、他の地方と同様、低い水準での景況感良化であると判断している。今後も地域特性を活かした、堅調な景気回復に向けた一層の努力が求められており、その上でも地域に生き抜く、我々中小企業診断士が地域の課題克服のため、その技能や実践的活動を高めていくことが大変重要であるとする。

毎年支部にて実施している「調査研究事業」であるが、本県の研究テーマを、

1. まちづくり3法の改正・見直しがあった点
2. 県内商店街及び中心市街地の活性化が進まない
3. 県内で赤字地域鉄道の見直しがされている等の理由により、県中央に位置し、古くは国府があり栄え、現在も地方の中心都市でありTMO活動をはじめ積極的にまちなか再生に取り組んでいる「石岡市」を調査研究の地として取り上げ、

1. 新たな中心市街地活性化の考察
2. 鹿島鉄道の存続に向けての（1）取り組む課題、（2）有効利用策、（3）沿線地域と連携した街づくりの研究
3. 鉄道と中心市街地活性化のあり方
4. 中小企業診断士としての役割等を検討した。

ところが、調査研究を進める中で、当初は鹿島鉄道存続の当面の見通しが立ったと思い安心して、「まちなか」や沿線地域に役立つ有効利用や活性化策を検討していたが、一転、本調査研究をまとめる年末に、次の運営会社が決定できず、結果廃線という流れになってしまった。この決定は、支部でさまざまな活性化策を検討開始した矢先であり、当惑すると同時に、残念なことであった。しかし、廃線が一応平成19年3月末日に決定された以上、急遽、本調査研究事業の取りまとめ方針を変更せざるを得なかった。その中で、本年1月初旬には、再度街なかの取材を実施して、具体策を含めた中心市街地活性化策をまとめあげた。

結論としては、石岡市の中心市街地活性化に向けては、市の特徴である歴史と文化をどのように、まちのにぎわいに結びつけるかという観点で、ハード事業（駅前の集客施設の整備）、ソフト事業（まちなか居住とふるさと意識、まちなか回遊と個店・商店街の活性化）の推進を提言した。

石岡市に限らず、県内でも数多く中心市街地活性化や廃線の問題が存在する。活性化の決め手は、最後には「人材」であり、その上で地域に生き抜く我々中小企業診断士が「地域の人材」となれるよう、本調査研究事業をスタートとして日々研鑽を重ねていきたい。